| 令和6年度 高山市立松倉中学校 学校経営の重点及び自己評価 校長 川原 毅 | | | | | | | | | |
|---|--|-------------|--------------------|--------|-------------|---|--|----------|---|
| 方 針 重 点 | 本の 施 | 教育目標 学校の | 資質・能力 | との関わり | 基本施策 | 本年度新たな学校の重点 | 具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか) | 評価 A ~ D | 分析と改善点 |
| 針・郷土高山に根ざし、未来を切点・挑戦し続けるたくましさの育深い学びを実感できる授業への挑 | ①②③④ 深っ は り い り と き び た り た り た り た り た り た り た り た り た り た | | こあふれ、自分らしさを発見している。 | 達成 | | ・「This is me」が認められ、主体的 に学びに向かっていける環境づくり | 1)生徒が主体的に授業目標・授業評価を作成、実行する 2)集中して学習できるようにするために、人的環境と物的環境を整える | A B | ・9割以上の生徒が授業に前向きに取り組んでいる。 ・授業目標や授業評価を生徒たち自身が考えるスタイル にしたことで、自分事として授業に臨む生徒が増えた。 ・どの教科でもICTを使う場面が多く、生徒たちはうまく使 ・用しながら学びを進めていた。今後は「何のためにICTを |
| | ひを実感できる授業への挑戦にい自分」へ向かう個の見届けい協働・地域社会への発信さと働ける学校づくり | 性豊かでた | | 感を育む | | ・誰もが自分らしさを発揮しながら、 主体的に課題を解決していくことの できる授業づくり | 1)授業の導入部では、「好奇心」をゆさぶり、生徒が「必然性」や「見通し」をもって課題に取り組めるようにする 2)「対話」「つなぐ」「ゆだねる」をキーワードとして、授業をコーディネートする | В | 活用するのか」を生徒も教師も考え、使用場面を精選したい。 ・教師や生徒の環境面の意識を高める必要がある。 |
| | | | | ·学·校 | | ・確かな学力を身に付けさせるための手立て | 1) 資料やICTを活用し、自分の力で必要な情報を集 | ВВ | ・「わかった」「できた」を実感できるよう、指導過程の見直しを図るとともに、効果的な指導と評価のあり方について、引き続き研修を進めていく。 |
| | | | | 貢献感 | | ▪「This is me」の精神を大切にする 生徒会運営 | 1)「自分らしさ」、「主体性」を大切にして生徒会活動を 行う 2)仲間と関わる活動を仕組み、恩のある温かい関係 を築く | | た。1) 事後互いの長さを価値 507る店勤を仕組み、認め られていることを実感し、温かい関係につながった。 ・全ての行事スローガンに「全員で」という言葉を入れるこ |
| ための | _ 人 ひ | しく 生 | カし なば | を育む学校 | | ・「なりたい自分(夢)」を追求する活 動 | 1)各行事において、個人目標を設定し、振り返りを行うことで、具体的な改善点を明らかにする 2)計画的・継続的な「夢」につながる進路指導を行う | | め、定期的、継続的に振り返る時間を確保したり、振り返りの指標を与えたりしていく。 ・「チーム松倉」として不登校の対応ができたが、割合は昨年度比で増えている。外部機関との連携強化等、より組織的な対応を推進していく。 ・時代に合ったPTA活動になるように、実行委員会を中心に活動や組織の見直しを進めることができた。 ・職場訪問(1年)職場体験(2年)寝屋子会(1・2・3年)という3年間の流れの中で、寝屋親さんとの関係を深める職場もあり、地域と学校がつながる良い機会となった。・寝屋子活動がマンネリ化しつつある。本来の目的やねらいを見直し、何のためにやるのかを生徒、職員、地域で再確認する。 |
| 資質・能力を育む | とりの子に居場所をつく | き抜く生徒 | ら、 主体 | | 2 | ・誰一人として寂しい思いをさせない集団づくり | 1)常に気にかける心がけを失うことなく、チームで対応し、個に応じた温かい支援を行う2)年間30日以上欠席生徒の割合の削減を実現する | | |
| | | | 的 | \neg | ③ 4 | ・PTA活動の充実 | 実行委員会の連携を強化し、地域・保護者と協働した PTA活動の充実を図る | Α | |
| | | | 課題 | 協働 | | ・地域ボランティア活動の充実 | 1)国道事務所除雪隊に参加し、地域の除雪を行う 2)校区の地下道清掃を行う | В | |
| | | | を 解 | の学 | ! <u>③</u> | ・キャリア教育の積極的な推進 | 1)寝屋親さんから生き方や郷土愛を学ぶことで、故郷への愛着を深める | В | |
| | る | | L | 校 | | | 2) 職業調べや職場体験、寝屋親さんとの交流を通して、「人としてよりよく生きること」の精神を育む | В | |

・生徒の力で行事や授業を進めている。生徒の主体性を大切にした学校経営がなされている。 ・自分の意見を堂々と伝える姿がある。たくましさが育ってきている。一人でも多くの子にその力を育んでほしい。 ・SNSの問題や部活動の今後が心配である。学校だけでなく地域全体でそれらの問題に取り組み、思いやりと 強い心をもった人間を育てていく必要がある。

学校運営協議会における主な評価内容